

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	リップコード・フライト	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.049	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：RIPCORD FLIGHT

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

番

研磨剤

比較対照ボール：RIPCORD

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

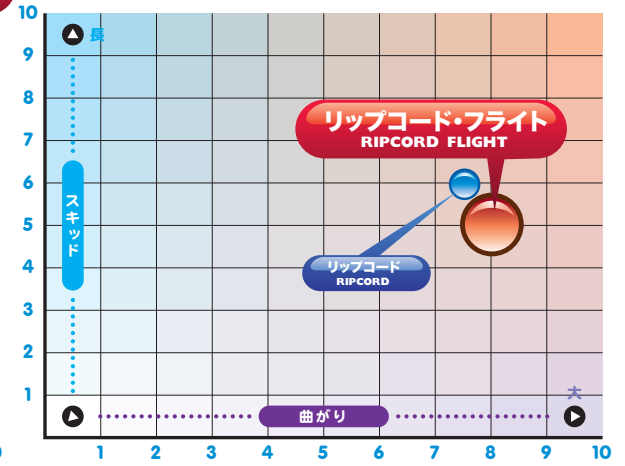
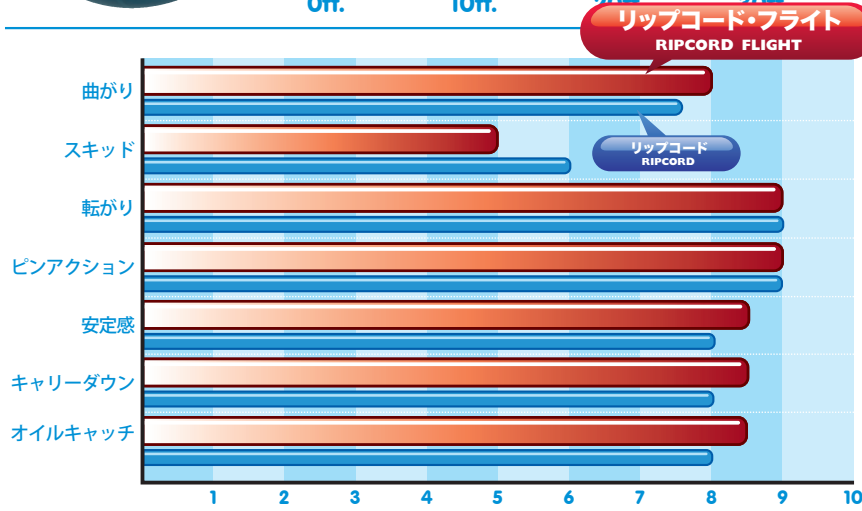
4-1/2

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

パラノイアから受け継がれたOblivion Coreのカバーストックをバージョンアップさせることで生まれ変わったRIPCORD。走りやキレを出すために開発されたInfusion Reactiveは、バックエンドで大きくネジれるOblivion Coreとマッチさせる事で、さらに先での動きを強調させた攻撃的なラインを攻める事ができるようになりました。

今回のRIPCORD FLIGHTはInfusion ReactiveをTurmoil Max Solid Reactive 3000Grit LSSに変更し、初代RIPCORDとは全く違ったパフォーマンスを目指し作り上げてきました。

まずTurmoil Max Reactiveですが、REVOLTをはじめTurmoilカバーはメジャーで多くの方に知られています。そのTurmoilカバーを強めた(Max)素材とRIPCORDの奥でネジれるリアクション特性のコア。今回は専属山本勲プロと私の感想を含めご紹介いたします。まず山本プロと私で共通した認識は、Infusion Reactiveで感じたキレるRIPCORDのイメージから一変し”寄る”イメージに感じる事です。もちろんTurmoilカバーに変わったことと箱だしが3000Grit LSS仕上げになったこともあり、Max素材の影響だと思えます。かといって、もの凄く手前から嘯みあがるイメージが出ないのがTurmoil Max Solid Reactiveの特徴なのでしょう。ボールモーションにバラつきが出ないのは扱いやすさは感じますが、私の場合はもう少し手前からキャッチしてくれた方がもう少しオイルが多いコンディションで使えるのと思っています。

山本プロは実際トーナメントに持込みHighアベレージで打ち上げていましたが、「オイルに対して安定感が増したこと、バックエンドで暴れる印象よりもしっかりオイルをとらえてポケットまで寄ってくる印象です。」と答えています。私のように手前が走りやすいタイプにはもう少しブレーキで減速させるための追加の表面加工も必要になることも視野に、自分好みのパフォーマンスに仕上げるのが良いでしょう。

特記事項

キレを意識したRIPCORDから一変し、安定感と読みやすい軌道のスペックで仕上げてきたこのRIPCORD FLIGHT。MOTIVプロスタッフEJタケットも気に入って使用しているボールをぜひお試しください。